

せとこう

風戸港（直島町管理地方港湾）

風戸港は直島の北岸に位置する天然の良港であり、古来、その名の示すとおり、潮待ちおよび風よけの港として利用されてきました。

本港が近代港湾としての発展を始めたのは大正6年に、銅の製錬工場が港に立地したことに始まり、以後、直島は金属および化学の町として飛躍的な発展を遂げ、その名を知られるようになり、風戸港も工業港へと変貌を遂げ、原材料の搬入および製品の積出し港として、その発展を支えてきました。

本港の整備は昭和27年から48年にかけて本格的に行われ、港の利用は工業関連のものが大半を占めています。

